

スはすくない。

間伐については、ユーカリの8年伐期、萌芽2回繰返しの施業では無間伐であり、マツ類では、30年伐期で1~2回実施するよう計画されているが、このような林分はまだすくない。

お わ り に

ブラジル滞在中は、造林とはまったく無関係の仕事に従事していたため、標題については、本来の仕事の合い間に見たり、聞いたりしたことを取りまとめる結果となり、筆者自らの、そのための調査、研究はほとんどなされないまま終ることになった。いふなれば、ブラジル造林紀行記の印象が強いことをお断りしなければならない。

ブラジルの本当の意味の林業は、今始まったばかりであり、アマゾン天然林の更新の問題も、その開発とうらはらに早急に解決されなければならないし、在来樹種の造林法も、経済的に成り立つ林業経営と相俟ってその技術の確立がまたれるのである。

新刊紹介

◎インドにおけるソーシャル・フォレストリー (K. M. TIWARI: Social Forestry in India. Natraj Publishers, Dehra Dun. 296 pp. 1983, Rs. 125)

今日インドでは、人口の増加にともなう燃料や食糧需要の増大が、森林の荒廃を招き、深刻な社会問題を投げかけている。特に村落周辺では、日常生活のための薪・木材・飼料等の採取による森林の荒廃が著しい。そこでその回復への手だてとして実践されているのが、ソーシャル・フォレストリー計画である。本計画が成功するか否かは、インドの社会経済の未来を決定する大きな鍵になると考えられている。

本書の著者は、インド森林研究所の前所長であり、インドにおけるソーシャル・フォレストリー計画実践の第一人者でもある。

本書は、著者がこれまでに発表したソーシャル・フォレストリーに関する論文をまとめたものである。全体は、8つの章で構成されており、ソーシャル・フォレストリーの概念、必要性、範ちゅう、促進方法、計画実例、調査の必要性等が述べられている。実際的な方法や技術の解説にも重点がおかれ、現地で仕事に従事する人々の手引き書としても活用できるように配慮されている。

全体的にいささか羅列的で、各章の内容に重複する部分が多いのが気になるが、それも手引き書としての宿命であろうか。ともかく、最近インドで盛んに出版されているソーシャル・フォレストリーに関する本の中で、本書が必読書の1つであることは、確かであろう。

なお、本書を読まれる際には、以下に挙げる著書の併読をおすすめする。

(K. M. TIWARI: Social Forestry for Rural Development. International Book Distributors, Dehra Dun. 108 pp. 1983, Rs. 85)

(K. M. TIWARI & R. V. SINGH: Social Forestry Plantation. Oxford & IBH Publishing Co., New Delhi. 79 pp. 1984, Rs. 75)

(竹田 晋也)